



ほろのべ

北緯45度のまち

議会だより

第77号

発行 北海道幌延町議会

編集 議会報発行特別委員会

電話 01632-5-1111

FAX 01632-5-2971

お も な 内 容

第2回幌延町議会定例会	
平成26年度各会計予算審査特別委員会 ……	2～3
一般質問 ……	4～5
第1回幌延町議会臨時会 ……	6
総務文教常任委員会 ……	6～7
産業厚生常任委員会 ……	7～8
総務文教・産業厚生両常任委員会 ……	8
行政報告・編集後記 ……	9

幌延町議会定例会が3月11日～17日の日程で開催され、議案1号～議案29号の条例の改廃や制定、平成26年度予算までのすべての審議を、原案どおり可決した。

第2回 定例会 幌延町議会

3月11日
～3月17日

平成26年度各会計予算

総額 **61億3,367万8千円**

一般会計 **50億4,400万円**

～斉賀弘孝氏を予算審査特別委員長に選任し、平成26年3月12～13日の審査の結果、原案どおり可決しました～

審議内容

《総務費》

(抜粋)

高橋委員 国は職員の住居手当を廃止の方針だが、町としてどう考えるか。

岩川総務課長 町の職員に将来とも定住してほしいとの趣旨から過去に2千5百円から5千円に増額した経緯があり、現在これを廃止、又は減額する考えはない。

植村委員 深地層研究等広報事業での広報イベント開催費の内容は。

角山企画振興G主査 「ゆめ地創館」での工作実験教室の開催を計画しており、委託開催3回と自前開催3回の合計6回を計画。深地層での研究内容を理解して頂くためにも、広く町内外に広報案内をして行きたい。

吉原委員 今年度の景観整備事業の内容は。

山下財政G主査 「下沼母と子の家」、「寿の家」と旧校舎の渡り廊下部分を、地域住民要望があり解体する。

佐々木委員 町史記録映像作成費の内容は。

角山企画振興G主査 平成30年の「開基百二十年」に向けて今年度より5ケ年で町の風景、行事等を記録映像として撮りためて行く。

《民生費》

西澤委員 臨時福祉給付金支援事業と子育て世帯臨時特例給付金支給事業の内容は。

村上保健福祉G主査 今年4月からの消費税率引上げに際し、影響の大きい低所得者や高齢者に配慮するために、消費税率8%期間の1年6ヶ月分の食料費を支援する。対象は町民非課税者とその扶養者で、1人当たり1万円が給付される。

加えて高齢基礎年金等の受給者には1人当たり5千円が加算される。

また、子育て世帯臨時特例給付金は臨時福祉給付金を受給されている以外の児童1人当たり1万円が給付される。対象は児童手当受給児童の中学校終了まで。

西澤委員 子ども発達支援センター事業での負担金増額の要因は。

村上保健福祉G主査 遠別・天塩・幌延が3町で合同設置

しているセンターだが、近年利用対象児童が増加傾向にあり、利用者の利便性を考慮して職員体制を強化するため、現在の4名から7名体制とした。

《農林水産費》

吉原委員 幌延町地図情報更新事業の内容は。

足達事務局長 現在使用している地図情報システムの更新と修正事業で、町内全域の航空写真(5千分の1)を撮影。現在の地形や地上物の変化に対応して行く。3ヶ年で完成予定。

《商工費》

高橋委員 トナカイ観光牧場の単純な草刈り、雑草処理などは外注で処理出来ないか。

伊山産業G主査 夏場の雑草処理には確かに苦労している。施設内の環境整備も大切なので、出来る範囲で検討し対応して行きたい。

《土木費》

西澤委員 町道新設改良工事計画の進捗状況と、「ふれあいの館」解体跡地の整備予定は。

高田経済課長 国の補助金や

過疎債などを活用しながらの事業なので、現時点では当初の予定より3年程度遅れている。

羽田管理G主幹 「ふるさとの森森林公園」改修事業で解体される「ふれあいの館」の跡地整備は、今後活用計画を立てて、来年度の予算に反映して行きたい。



《消防費》

植村委員 防災関係での救援備品購入はあるのか。

山本総務G主幹 消耗品費でLEDヘッドライトを購入予定。

定。その他、問寒別地区に発電機・非常食・毛布・保存用飲料水などを備えたい。

現在、これらの備蓄計画を作成中。

《総括》

西澤委員 近年になり、かなり大きな余剰資金を備荒資金組合などに積立運用出来るようになった。

今後は段々と進む高齢化に対応する、福祉政策の強化が必要ではないか。

宮本町長 私も就任以来、状況にに応じてこざくら荘の増築などに取り組んで来た。

しかし、これら福祉事業を充実させる事による、介護保険料の上昇が問題。

ヘルパー事業などの増員が必要であれば強化して行く。

野々村委員 独居老人見守り対策や高齢者健康診断システムなどの告知端末機の活用を考えては。

宮本町長 方法論としては色々考えられると思うが、診療所の体制など現状を考えるに難しいと思う。しかし今後、幅広く検討していく事も必要と思う。

特別会計

町立診療所特別会計

鷺見委員 平成26年度の不採算病院補助金予定額は。

飯田会計課長 地方交付税で算入される金額は2千3百99万7千円の予定。

《総括》

植村委員 現在、看護師を始めとする診療所スタッフは規定に達しているのか。

宮古事務長 診療所になり、看護師の配置基準は無いが、今は充足されている。ただ、清掃員、管理栄養士、厨房員が欠員となっているので、募集を行っている。

西澤委員 今後、訪問看護事業などを検討出来ないのか。

宮古事務長 今は医師1名体制で問寒別診療所、北星園、こざくら荘と週に3か所の往診をしている。これ以上となるとかなり難しい。

介護保険特別会計

《総括》

鷺見委員 北海道の中でも高いと言われる保険料と、介護サービスの現状をどう思うか。

宮本町長 こざくら荘の定員

をもう10名程度増やしたいと思うが、保険料に跳ね返るので、苦慮している。町民の意向を聞きながら、基本的には「福祉会」の考え方を尊重し、検討して行きたい。

植村委員 介護施設入居規定改正では介護度3以上の者が対象となり、認定度数の低い人達を取り残される心配があるが、どう考えるか。

鈴木町民課長 地方の施設に關しては地域事情も考慮して、多少なりとも規定緩和されるものと期待している。なお、当然在宅介護サービスを拡充していくことになるが、現状以上の利用者ニーズに比べると、スタッフの確保がこの地域では難しいのが実情。

しかし、今後これらの事を踏まえて検討、拡大できるように努力していきたい。

吉原委員 介護福祉の先進地へ職員を視察研修させるべきでは。

宮本町長 必要に応じて介護施設等に職員を派遣し、視察研修を出来ればさせたいと思う。

地域の課題をとらえて 2氏が一般質問



西澤 裕之

幌延町エネルギー 施設等振興基金に ついて

質問 この基金を、産業の創造と雇用の創出が図られるような事業に、中・長期的に活用していく考えがあるのか。

町長 基金の目的は再生可能エネルギーの取り組みや地域振興につながる事業の財源として活用していくとなっており、大型事業にも積極的に活用したいと思っている。ただ、事業可能性調査などを検討しつつ進めていかなければならないと考えている。

質問 基金を計画的に積み立てていく必要があると考えるが、町長の考えは。

町長 大型事業に基金を充当していくとすぐ枯渇してしまい、当然、工夫をしながら活用していかなければならない。将来にわたってエネルギー関連施設をどのように展開していくかについては、具体的施策の検討

や経費の試算を行ったうえで、今後の運用方法を検討していきたい。

質問 幌延地圏環境研究所が行っている研究は、本町にとって重要かつ将来に期待の持てる研究だと理解している。町長は、幌延地圏



幌延地圏環境研究所

環境研究所をどう位置付けているのか。また、その存在をどのように考えているのか。

町長 幌延地圏環境研究所は、本町が地域振興策の一環として誘致した研究所である。設立以来、幌延フィールドを活用して様々な研究を進め、その研究成果は、

地域の特産品開発やローカルエネルギーギー地産地消モデルにつながる可能性があると考えている。

国の補助金が減額されるなか、研究所の予算確保について、今後も関係省庁へ要請活動を続けていかなければと思っている。

研究所が地域経済に大きな役割を果たしていること、



今後の研究成果が、特産品開発や地域雇用拡大につながる可能性もあることを勘案すれば、幌延町にとって重要な位置付けであり、町として何らかの支援策も検討していかなければと考えている。

職員研修事業について

質問 新人研修と同時に、平成25年度に行ってきた研修を引き続き行うべきだと考えるが、町長の考えは。



町長 中堅職員の研修を3年間実施してきた。その研修成果として、地域課題解決に向けた施策提言を昨年12月に受けた。中堅職員については一定のスキルアップが図られたことと、新任職員における基礎的な能力向上を図ることで職員全体の業務遂行能力が向上し、まちづくりに資する職員の育成が推進されることから、新任職員研修を優先して実施することとした。なお、まちづくりに関しては、プロジェクトチームを作って検討したいと考えている。

質問 まちづくりや町政に参加してもらえる人材をどのように育てていくのか。

町長 段階的に町の職員で検討し、必要があれば町民の方も加わってもらうなど、プロジェクトチームで検討を進めていきたい。

質問 今年も国保税の引き上げが行われるが、今までと同じ考えでは毎年値上げを繰り返すことにならないか。

町長 今年度の値上げした増収分を見込んで赤字になる。不足分は一般会計から繰り入れる予定だ。

質問 この3年間毎年値上げをしている。1世帯あたりいくらぐらいになるか。

町長 20万6千円位になる。

質問 純農村としては、人が減る中で住民の理解を得ながら国保会計を維持していかなければならない。そ



放牧風景



驚見 悟

町民のいのちとくらしの問題について

のためには、一般会計からの繰入もどうしても必要だと私は思うが。

町長 私も悩んだ。基金の取り崩しと法定外繰入の決断をしなくてはならない。

質問 全国的にも子育て支援を行う自治体が増えてきているが、幌延町としてはどうか。

町長 幌延町としては、中学生までの医療費の無料化、今取り組んでいる認定こども園を拠点とした支援を考えている。

質問 地域おこし隊についてはどう考えるのか。

町長 今年は受け入れの準備と考えている。

質問 近隣町村の取り組みは町長もよく知っていることと思うが、60歳を超えた人も対象にしているところもある。定住を含めてそういう隊員を募集したらどうか。

町長 農業と商工関係が対象になるとは思う。

質問 農業関係だけでなく、民宿を含めた宿泊施設、研修施設などは考えられないのか。

町長 たとえば中山間の関係で豊富町のような方式も考えられるが、取りあえず幌延では農業関係については、コントラ事業とTMRセンターに取り組んで行き

たい。

質問 空き家の有効利用などはどうか。

町長 ほかの町村に比較すると空き家は少ない。今後調査をして行きたい。

原子力機構の動向について

質問 地下350mまでの工事がほぼ完了するが、実際に仕事が無くなった人は何人いるのか。

町長 具体的には掌握していない。

質問 12月議会の時には40名くらいと述べていたが。

町長 全体でとらえて、地元の企業からの派遣を含めた数字。

質問 12月議会では、「文献調査の申し入れが来たら私は受け入れるつもりはない」と言って、「町民に周知する」と述べている。この意味はなにか。

町長 議会に報告するし、町民にも報告するという意味。

第1回 幌延町議会 臨時議会

1月27日

平成26年第1回幌延町議会臨時議会が1月27日に開催され、報告1件、議案1件について審議し、原案どおり可決した。

財産の処分について

(株)幌延風力発電の9%株を、5億2千8百万円でJFEエンジニアリングに譲渡する。

質問 出資配当は今後求めていくのか。

副町長 経営状況により配当が出来るようなら求めていく。

質問 町長はなぜ役職を降りたのか。

総務課長 補助金の関係で自治体の強い関与が求められていたが、事業も安定してきたため、スポンサー企業の自主的な運営にまかせることとした。また、代表取締役は降りたが、いち取締役となっている。

質問 建設費は総額いくらか。

総務課長 当初事業費45億4千2百22万9千円。

質問 当初設備利用率はどう想定したか。

総務課長 26・7%と想定したが、実績は30%近い。

質問 総額1千万円の出資比率は。

総務課長 設立当時の出資比率は幌延町51%、JFEが19%、伊藤忠が13%、その他8社で17%。

質問 繰り越し余剰金があるのは、経営が安定しているからではないか。当時の新聞によると、9円の時で17年間で70億の売り上げ見込んでいたとある。単価もあがったので今後どうなるか関心あるところだ。

副町長 会社設立時は売電単価は確か9円くらいで、今19円になって経営は安定していると思う。将来の解体に向けての内部留保、また必ずしも今の経営がそのまま行くとはい限らないので、経営状況が良好であれば配当は求めていく。

質問 今後名称はどうなるのか。

総務課長 変わる予定はない。

質問 株主総会の本町からの出席者は。

総務課長 取締役並びに株式会社社員の町職員（総務課の職員）が出席。

質問 今後、基金の確保はどうする。

総務課長 今回譲渡によって得た5億2千8百万円を特定目的基金に積む。地域振興策やエネルギー施策に使う。



オトンルイ風力発電所

総務文教 常任委員会

第1回総務文教常任委員会

1月21日

◎幌延風力発電(株)の幌延町保有株式の売却について

前回の委員会（12月19日）でも説明があったが、今回は設立経緯、幌延風力発電株式会社の概要、株を売却した売却益の使い道、議会への提案のスケジュール等への報告があった。

質問 風車で利益が上がったから農業振興に使う目的だったと先輩議員は話していたが、町長は何か覚えていないか。

町長 記憶に無い。

質問 撤去費用はどの位積み立てたか。

総務課長 風車本体で1億9千4百万円、基礎部分で1億3千3百58万8千円。

質問 町長が目指そうとするこの基金の目的は。

町長 正直言ってまだこれにということでは決めてない。やる時にはきちっとした目的を持ってやらねばならないと思う。

質問 基金の目的は、今後の

協議の中できちっと議論して使っていくかねばならないと思うが。

町長 今後いろいろと煮詰めていく事が一番よいのではないか。

質問 年次毎の電力単価は。

総務課長 1年目から5年目まで、9円99銭。6年目から9年目まで9円19銭。10年目から13年目まで8円46銭。14年目から17年目が7円78銭。今は24年度途中から19円35銭となり、35年8月まで同じ単価となる。

質問 土地の使用料見直しは。

総務課長 自治体がやる場合、土地使用料にルールがあり、計算されている。また、この事業に関する委託料で年間3百15万円頂いている。

第3回総務文教常任委員会

2月27日

消費税・地方消費税率の引き上げに伴う使用料・手数料の改正について

道を通じて総務省から消費税率の引き上げに伴い、消費税が円滑に転嫁されるよう通知があった。

町自律プランでの料金見直しの年でもあり、庁内において料金改定を検討。

消費税引き上げに伴う歳

出負担は概算で6千4百80万円増額すると見込まれる。消費税率引き上げ程度を上乗せする改定とした。

料金を原則10円単位としており、現行料金が3百50円以下の場合、据え置きとした。

◎木造住宅耐震・バリアフリー改修事業補助金交付要綱の改正について

平成27年度末までに木造住宅耐震化90%以上の目標達成のため、平成26年度からは、リフォーム改修工事も補助対象に含めることとした。

◎住宅用太陽光発電システム設置補助金交付要綱の改正について

新たに住宅用発電システム(最大出力10kw未満、システム価格50万円/kw以下)を設置したものが対象。

1kw当りの設置費用の2分の1。

4kwまでの設置費用で、助成限度額100万円

◎民放テレビ中継局デジタル放送施設整備について

12町村が連携して、テレビ北海道が受信可能となるよう中継局等を整備する。

幌延町の整備費用負担は

5百2万4千円。

順調に工事が進めば11月か12月には視聴可能。

◎国道40号天塩防災事業について

事業概要

区間▼天塩大橋架け替え整備・幌延インターチェンジの立体交差

延長▼13km(幌延町関連3.4km)

全体予算▼115億円

・工事担当は、26年度より稚内開発建設部

・幌延インターチェンジは立体交差となる。

・今後は、町の所有する防風林の追加買収が必要。

◎住民の生活交通対策について

町広報参照(4月号)

【質問】患者輸送バスの名称を変えたほうがいいのでは。

【総務課長】バス購入時の補助制度との関係がある。愛称等について検討したい。

◎児童生涯学習センター建設基本設計について

基本設計委託業者は、北電総合設計株式会社で、業務期間は平成26年6月25日から12月25日までで、契約金額1百94万2千5百円。

【質問】太陽光発電は付けない

のか。

【教育次長】駐車場の外灯のみ。

【質問】土盛りはどうなったか。

【教育次長】道路と同じ高さで、確か50センチくらいとなる。

【質問】地盤は問題ないのか。

【相馬主幹】実施設計の時、地盤調査する。データとして道路向いの公住の時に37m程度の地質調査している。

◎幌延町総合体育館非構造部材強度確認業務について

委託業者(株)中原建築設計事務所が、6月25日から10月31日までの期間、1百21万8千円で実施した。

①吊り下げ暖房機

【改善の方法】遠赤外線放射暖房としたい。

②照明器具(88基)

【改善の方法】鉄骨部分の補強。

③スピーカー(6基)

【改善の方法】壁面の安全な位置に移設する。

【質問】アリーナの塗装はどうなっているのか。

【教育次長】現行ウレタン塗装で、何年かおきに塗装している。

産業厚生 常任委員会

第1回産業厚生常任委員会

1月27日

◎幌延町鳥獣被害対策実施隊について

農林水産業に係る深刻な鳥獣被害に対処するために鳥獣被害防止計画を策定し、幌延町鳥獣被害防止対策協議会において、計画に基づく取り組みや情報の収集、対策事業の展開をしていく。

そこで、新たに実践的な活動を担う組織として、実施隊を設置する。

構成員は、幌延猟友会の全会員、経済課職員3名程度。経済課職員以外を町の非常勤職員として任命したいと考えている。

◎コントラクター事業に係る支援対策について

町の支援内容は、機械導入に係るリース料の半分程度を補助することと考えている。

第3回産業厚生常任委員会

2月27日

◎幌延町認定こども園(仮称)について

認定こども園の詳細な運営方針等については、平成27年4月から実施される予定の「子ども・子育て支援新制度」や、新たな保育要領を熟知した上で、関係者と議論しながら決めていきたいと考えている。

【質問】(仮称)となっているが、愛称を募集するのか。

【藤井主幹】愛称を募集することとで内部検討している。

◎幌延町障害福祉サービス施設等の指定管理について

現在の協定期間が今年度末で満了することから、引き続き平成29年3月まで社会福祉法人幌延福祉会と指定管理協定を締結したいと考えている。

なお、完全民営化については、色々な事情を踏まえながら引き続き検討していきたいと考えている。

◎幌延町国民健康保険特別会計の運営状況について

本町の国保税については平成24年、25年度と段階的に改正を実施してきた。特に平成24年度においては、地域の保険税額の水準等を考慮し、なおかつ財政調整基金を活用しながら大幅な負担の増加を回避してきた。

平成25年度の決算見込みは、実質的な単年度収支が約2千80万円の赤字となる見込だが、財政調整基金と

繰越金で補うことができる。

平成26年度の収支の見込みについては、基金全額を繰り入れても会計を維持していくことが困難な状況になったことから、保険税の改正と併せて町独自の軽減対策として、一般会計からの繰り入れを行う内容の予算編成とした。また、財政調整基金については、今後の会計運営のために枯渇させることなく、全額を留保したいと考えている。

総務文教・産業厚生合同常任委員会

第5次幌延町総合計画についての議会議論

平成26年1月27日

質問 コミュニティ施設の整備に触れているが、集約化と防災機能を併せた施設に建て替えを検討すること、具体的にはどう考えているのか。

総務課長 今回新たに集約化を検討し、防災機能を併せ持った施設として検討するという文言を加えた。老朽化と防災の観点が必要なら

こと。人口の減少などにより効率化を考えた。

質問 広報活動での告知端末機を利用した活動に触れているが、商工会の売り出しなどにも利用させてはどうか。

総務課長 だいぶ情報発信は行って来ている。検討していきたい。

質問 お年寄りの足ということで随分バス話し合いをしてきたが、バスの利用に告知端末をつかうことにつ

いてどう考えているのか。

総務課長 生活交通対策は告知端末の利用方法も含めて検討していく。

質問 協働の町づくりと言われているが、町政懇談会等の出席者が少ない。この辺の対策も考えて行かなくては、知恵も集まらないのではないか。

総務課長 総合計画の専門委員からも指摘があった。少し工夫をして、参加しやすいように努力したい。

質問 婦人部だとか老人クラブなどにも出向いて行ったらどうか。

総務課長 検討したい。

質問 深地層研究の推進と関連施設の誘致ということで幌延地圏環境研究所との連携を強化すると書いてあるが、具体的なことがあるのか。

総務課長 二酸化炭素を石炭層に入れることによってメタンガスを回収する研究をしている。町としても支援を含めて検討していきたい。

質問 観光について、ホスピタリティ運動の啓発を進めると書いてあるが、その前に内容の充実という方が大

切ではないか。

総務課長 確かにそうだ。トナカイとかサロベツ原野関連など観光の目玉になるものはあるが、通過型観光になっている。町に泊まってもらえるようなことを考えて行きたい。

質問 森林の整備保全に取り組むということで、木質バイオマスというのが入っているが、酪農家の糞尿の大量発生が問題になっている。バイオマス発電を盛り込むべきではないか。

総務課長 自然環境に配慮した持続可能な農業を推進すると書いてあり、循環型農業の推進を考えている。文章表現の仕方考えた

質問 予防接種の受診に関して。アンケートの中で、受診するのに仕事の都合でなかなか受けづらい時間帯だという意見が多い。

総務課長 確かにそうだと思う。考えて行きたい。

質問 高齢者の福祉施設の整備の中で、共生型

グループホームの整備を今まで言ってきたが、今回それが消えている。断念することなのか。

総務課長 まちなかに高齢者が集うことのできる拠点づくりというのは考えていく。共生型グループホームの取扱いについては、難しいと考えている。

質問 がん検診事業でPETの取り組みは必要だと思いが、検討してもらいたい。

副町長 調査し、医療機関とも話はしている。検診料が今の段階では高いことと、交通費もかかる。



ゲートボール

行政報告（口頭）

故角谷敏夫氏表彰

永きにわたり本町の代表
監査委員として務めていた
だいた、故角谷敏夫氏の
生前の功勞に対し、特別叙
勲の上申をしたところ、2
月7日、旭日単光章が授与
された。

故角谷敏夫氏は昭和36
年2月から昭和37年9月ま
で監査委員として、その後
昭和44年4月から平成12年
3月31日まで代表監査委員
として8期32年にわたり、
幌延町の健全な行財政運営
の執行にご尽力をいたたく
と共に、社会教育委員、教
育委員会委員、町史編さん
委員会地区委員、保育所運
営委員会委員、表彰審議会
委員など、幌延町教育、
文化、福祉の向上に多大な
貢献をされた。

故角谷氏は、代表監査
委員の職を退いたのち、ご
家族と札幌市にお住まいに
なっていたが、平成25年11
月30日、85歳で永眠された。

教育行政報告（口頭）

この時期、心配されてい
た学校でのインフルエンザ
については、幌延小学校2
年生で欠席児童が7人に達
したことから、2月17日か
ら3日間、学年閉鎖とした。
その後大きな広がりもな
く、最少でとどまっている
が、今後とも手洗い、うが
い等の励行について徹底を
図っていく。

学校教育活動について
は、稚内地区吹奏楽連盟主
催の平成25年度稚内地区管
楽器アンサンブルコンクー
ルが1月19日、稚内総合文
化センターで開かれ、幌延
中学校から6人で参加し
た。練習成果を発揮、銅賞
を受賞。次年度に向け活動
を期待するところである。

また、北海道中学校体育
連盟主催の第44回北海道中
学校スキー大会が1月15日

釧路市で開催され、幌延中
学校1年、永瀬由晟君が宗
谷地区代表の一人として、
スラローム、ジャイアント
スラロームに出場した。



議会の動き

- 1月8日 ▶ 第47回議会報発行特別委員会
- 1月14日 ▶ 第48回議会報発行特別委員会
- 1月21日 ▶ 第1回総務文教常任委員会
- 1月21日 ▶ 第49回議会報発行特別委員会
- 1月27日 ▶ 第1回臨時会
- 1月27日 ▶ 第1回産業厚生常任委員会
- 1月27日 ▶ 第2回総務文教・産業厚生合同常任委員会
- 1月27日 ▶ 第1回全員協議会
- 2月27日 ▶ 第1回議会運営委員会
- 2月27日 ▶ 第3回総務文教常任委員会
- 2月27日 ▶ 第3回産業厚生常任委員会
- 2月27日 ▶ 第2回全員協議会
- 3月5日 ▶ 第2回議会運営委員会
- 3月11日～13日 ▶ 第2回定例会
- 4月4日 ▶ 第50回議会報発行特別委員会
- 4月7日 ▶ 第51回議会報発行特別委員会
- 4月10日 ▶ 第3回議会運営委員会
- 4月10日 ▶ 第4回総務文教常任委員会

編集後記

積雪も大分減って来たが
まだ寒い日が続いている。
学校では新入生が、いきい
きと通学している姿が見つ
けられる今日この頃、行政
も新年度になり、新規事業
に取り組む近年にない大型
予算となっている。その一
つが認定こども園で、ほろ
のべの将来を担う子供達を
育む大切な場所であり、そ
の完成が待ちどおしい。来
年の春から開園との見通し
である。私達編集委員も、
温かいホットな情報から厳
しい情報まで、あます事な
く町民の皆様にお伝え出来
る様に全員一丸となって頑
張りますので、この一年も
宜しくお願い致します。

編集委員長	鷲見
副編集委員長	斉賀
編集委員	植村
	弘孝
吉原	敦
哲男	悟